

農作物の生育状況と今後の見通し

農業振興戦略監とつり農業戦略課 研究・普及推進室 まとめ  
令和元年9月17日 現在

作物名	生育状況等	今後の見通しと対策	
作物	<p>水稲</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生育ステージは平年に比べ1～3日早い。</li> <li>穂数は、平年並～やや少ない程度の状況で、稈長・穂長なども同様に平年並程度である。</li> <li>収穫は順次行われているが、品質は例年並みの状況。</li> <li>収穫はほぼ例年並で進捗している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○収穫時期を迎えたほ場では適期収穫を行う。</li> <li>・出穂後30日を経過したほ場では、落水し、コンバイン収穫に備える。</li> <li>・出穂後30日を迎えていないほ場では、間断かん水を励行し、徐々に土を固くしていく。</li> </ul>	
	<p>大豆</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一部で部分倒伏やハダニの発生が見られるがその発生は軽微で生育は順調である。</li> <li>・莢付は良好であり、平年並程度の収量が見込まれる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・排水対策を継続して実施する。</li> </ul>	
果樹	<p>ナシ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「二十世紀」の選果は、9月17日で終了した。</li> <li>・本年の「二十世紀」は、昨年に比べると、やや大玉で3L中心2Lよりであった。</li> <li>・「新甘泉」「秋甘泉」は大きな問題なく終了した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・晩生梨は、台風に向けて落果防止剤の散布、棚の補強等を行う。</li> <li>・引き続き、カメムシの防除に気を付ける。</li> </ul>	
	<p>カキ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「輝太郎」の着色初めは8月26日で、平年より2日遅くなっている。</li> <li>・「西条」の着色始めは、9月17日で、平年より1日早くなっている。</li> <li>・「輝太郎」の目合わせ会9月24日、「西条」査定会9月26日に開催予定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「西条」「輝太郎」では、シルバーマルチの敷設を徹底し、着色促進及び品質向上を図る。</li> <li>・台風へ備え、防風対策を徹底する。</li> <li>・引き続き、カメムシの防除を徹底する。</li> </ul>	
	<p>ブドウ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「シャインマスカット」は8月下旬から出荷が始まっているが、台風等による曇天で、糖度上昇が遅れている。</li> <li>・スリップス類の被害とみられるアザが「シャインマスカット」等の晩生品種で一部散見される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土壌改良はほぼ平年並みの9月下旬頃から実施される見込みである。</li> <li>・収穫後防除を徹底し、病害虫の越冬密度を減らす必要がある。</li> </ul>	
野菜	<p>白ねぎ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>【春ねぎ】</li> <li>・定植作業はほぼ終了。夏の生育停滞、降雨による定植の遅れなどで生育はやや遅れているが、概ね順調。</li> <li>・一部でスリップス、白絹病が見られるが、まだ影響は少ない。</li> <li>【夏ねぎ】</li> <li>・9月上旬の高温の影響で、軟腐病、萎凋病、白絹病が増加している。収穫時に3割程度廃棄となるほ場も見られる。</li> <li>【秋冬ねぎ】</li> <li>・8月下旬の気温低下で、一時的に生育が進んだが、9月以降の高温で再び生育が停滞。併せて軟腐症状が増加している。特に8月下旬に気温が下がった時期に土寄せ・追肥を行ったほ場で、腐敗・欠株が目立つ。</li> <li>・地域によっては、スリップスが多発傾向。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・軟腐病、白絹病等の発生は、まだ続く見込みで、防除を徹底する。</li> <li>・夏ねぎで収穫期を迎えてもものは病害の蔓延を防ぐため早期に収穫する。</li> <li>・秋冬ねぎは気温の推移を確認して土寄せ、追肥等の管理を再開する。管理再開後はこまめに土寄せするなど生育を促進する。</li> <li>・サビ病が発生しやすくなるため予防防除を徹底する。</li> <li>・秋雨で降雨が続くと軟腐病の発生が懸念されるため、排水対策を徹底する。</li> <li>・台風へ備え、事前に倒伏、葉折れ防止の紐(ハウスバンド等)を張る。</li> </ul>	
	<p>ブロッコリー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・秋冬ブロッコリーの播種作業は終了。定植は計画の65%程度進捗。</li> <li>・一部で黒すす病が発生したが、拡大はみられていない。</li> <li>・7/下定植のほ場で収穫が始まっているが、本格的な出荷開始は9月下旬の見込み。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定植は10月中旬まで続く見込み。</li> <li>・今後の台風の進路に注意し、場合によっては台風が通過してから定植する。</li> <li>・台風等による大雨や秋雨(長雨)に備え、明渠など排水対策を徹底する。</li> <li>・秋雨により黒すす病、細菌病等の発生が懸念されるため、予防防除を徹底する。</li> </ul>	
	<p>らっきょう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定植は8月中旬に概ね終了。</li> <li>・8月下旬の気温低下、降雨により、定植後の出芽は概ね順調。</li> <li>・植え付けの早いほ場で、ハモグリバエの発生が見られるが、影響はない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生育初期のネギハモグリバエの防除が遅れないよう徹底する。</li> </ul>	
	<p>ながいも</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>施肥・防除などの栽培管理は終了。一部ほ場で炭疽病・ハダニ類が発生し地上部の黄化、落葉がみられるが比較的少ない。</li> <li>9月10日試験掘りでは、ナガイモ866.8g(平年比82.2%)、なばりっこ715.1g(平年比75.8%)。8月下旬の日照不足の影響で、例年より肥大が劣っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・9月17日～10月中旬にかけて、アクの発生調査予定。アクの状況を見て収穫開始時期を判断、11月から出荷見込み。</li> </ul>	
	<p>アスパラガス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・梅雨明け後の高温乾燥による収量低下、曲がり等の品質低下の影響で、累計収量は昨年の90%程度。</li> <li>・斑点病、萎凋病の発生がみられる。8月下旬に気温が低下したが降雨が多く、9月上旬の猛暑で一気に病害が拡大した。</li> <li>・9月に入ってからヨトウ類の発生もみられる。発生時には防除を呼びかけている。</li> <li>・露地では、昨年多発しているところその傾向が強い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収穫は10月上旬頃まで続く見込み。最終収量は昨年を下回る見込み。</li> <li>・十分な株養成ができるよう、萎凋病、斑点病の防除を引き続き徹底する。</li> </ul>	
	<p>夏秋トマト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・収穫は7～8段中心(10～12段で摘心しているため、収穫進捗7～8割)。</li> <li>・高温期の不着果、花落ち段は終了したが、果実はやや小ぶり。気温低下により着色も進みにくく出荷量は減少傾向となっている。</li> <li>・青枯病は例年よりかなり少ない。オオタバコガの被害が増加している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・温度の低下に伴い、今後は出荷量が減少してくる見込み。</li> <li>・オオタバコガのほかオンツコナジミの増加が想定されるため、適期防除を徹底する。</li> </ul>	
	<p>ミニトマト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・累計収量(半促成含む)は、昨年対比105%で、平年並み～やや多いが、M規格が多く小玉傾向。強草勢の調整のため、伸ばした側枝にも着果させた影響が考えられる。</li> <li>・8月中旬の雨後から、「へたかび」が多くなっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気温低下に伴い、平年と同様に今後出荷量は減少する見込み。</li> <li>・長雨等で湿度が高くなると葉かび病、すすかび病などが発生しやすいため、予防防除を徹底する。</li> </ul>	
	<p>にんじん</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・8/10頃から播種が開始され、発芽や初期生育の不良はなく概ね順調。ただし、降雨により葉タバコ収穫後の土壌消毒・播種が遅れている場が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業が遅れているほ場は、天候を見て土壌消毒、播種を速やかに行う。</li> <li>・秋雨の連続降雨による湿害、根傷みを回避するため、排水路の整備などの対策を行う。</li> </ul>	
	花き	<p>リンドウ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・智頭町で晩生系統、深山系品種が開花中。</li> </ul>	
		<p>シンテッポウユリ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>【彼岸出し(露地抑制)】</li> <li>・八頭町で1戸が彼岸出し作型に取り組んでいる。生育にばらつきがあり、9月初旬から直売所に出荷している。葉枯病はあるが、出荷に影響はない。</li> <li>・倉吉市では、早いものの草丈は1m程度で、着蕾が確認できる。平均的な草丈は50～60cm。着蕾にばらつきがあり、彼岸出し間に合わない株が多くみられる。ただ、この生産者は8月上旬から10月中旬頃まで順次出荷する栽培体系をとっており、特に彼岸に集中して出荷する予定はない。</li> <li>・北栄町では現在出荷中。生育は揃っており、病害虫の発生も認められない。</li> <li>【ハウス抑制栽培】</li> <li>・北栄町の抽台率は最高97%、最低67%で、全体の平均は78%と近年の中では良好となっている。一方で茎の細い株が目立ち、2輪の発生が多くなることが予想される。</li> <li>・倉吉市でも1戸が初めて栽培に取り組んでいる。草丈は100～130cm程度。抽台率は高く(北栄町の集計に算入)、生育は極めて順調。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【彼岸出荷作型】</li> <li>・北栄町の彼岸出し作型は月末までにはほぼ終了すると思われるが、彼岸の出荷ピークにはやや遅れる見込み。</li> <li>【ハウス抑制作型】</li> <li>・出荷は9～10月が例年よりも多い見込み。</li> <li>【共通】</li> <li>・葉枯れ病の防除を徹底する。特に露地栽培では夜露が降りる季節になり、多発することが予想されるため、定期防除に加えて、降雨後には必ず防除する。</li> </ul>
<p>トルコギキョウ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>【抑制作型】</li> <li>&lt;東部地区&gt;</li> <li>・八頭町の盆出荷作型は順調に終了。</li> <li>・智頭町で1戸が9月出しを行っている。切り花開始はほぼ昨年と同じ8月下旬からで、切り花長は昨年より長い。スリップスの発生はない。</li> <li>&lt;中部地区&gt;</li> <li>・倉吉市、北栄町では順調に生育し、順次開花中。</li> <li>・北栄町の2戸が高冷地育苗の苗で抑制栽培に取組中。7月上旬定植で9月中旬ごろから出荷開始。青枯病の発生が一部みられる。生育は順調で、開花、出荷されている。ハウス内の特定部分に多発し、品種によっては20%程度のロスが見られる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;東部地区&gt;</li> <li>・智頭町の抑制作型は9月下旬には終了予定。</li> <li>&lt;中部地区&gt;</li> <li>・青枯れ病の対策が必要である。</li> </ul>	
<p>ストック</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;中部地区&gt;</li> <li>・倉吉市の一番早い作型(7/26播種)で草丈20cm程度。その他のほ場でも、順次八重鑑別等の管理が行われており、おおむね順調に生育している。</li> <li>・ほ場によりキスジノミハムシと思われる食害が見られる</li> <li>・栽培1年目で灌水管理がうまくできていない生産者がある。</li> <li>・北栄町での播種は終盤。発芽は概ね順調で問題はない。ハイマダラノメイガ(ダイコンシンクイ)、コナガの発生が一部みられる。</li> <li>7月下旬播種分から順次花芽分化調査を実施している。9月17日現在で葉数は60枚を超えているが、未分化の状況。</li> <li>&lt;西部地区&gt;</li> <li>・溝口では7月16日播種作型で8月24日花芽分化を確認(前年と同じ)。7月24日播種では9月1日花芽分化を確認した。(前年より7日早い)。</li> <li>・8月の高温の影響を受け、発芽揃いが悪い。</li> <li>・8月下旬からハイマダラノメイガの発生がみられる。</li> <li>・大山町(中山地区)では7/20前後から播種が始まっており、昨年よりも5日早い。現在、計画(82.1a)の8割が終了している。</li> <li>・発芽率は平年並みである。</li> <li>・8月が平年より高温で推移し、1週間程度生育が遅れている。</li> <li>・7月下旬播種分から花芽分化調査を実施している。9月17日現在、7月23日播種のホワイトアイアンで草丈20cm、葉数57枚で未分化。7月25日播種ピンクアイアンで草丈25cm、葉数56枚で未分化。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハイマダラノメイガ、コナガの防除を徹底する。</li> <li>・天候に合わせた灌水管理を実施する。</li> <li>・7月播種作型で葉数が50枚を超えたものは、ピピフルフロアブル1000倍液を100ml/㎡散布し、7日から10日後に再度散布して花芽分化をそろえる。</li> <li>・電照施設のあるハウスでは電照による花芽分化促進を実施する。</li> <li>・溝口地区の出荷始めは9月27日頃が想定される。南部町の出荷ピークは12月以降となる見込み。</li> </ul>	
畜産	<p>飼料用トウモロコシ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>東部地区</li> <li>・全体約60haのうち約48haで収穫が終了し、6月中旬播種分が残っている。</li> <li>中部地区</li> <li>・倉吉市: 全体84.6haのうち67.8haで収穫が終了。収量は平年並み。収穫は降雨で計画より遅れたが、概ね適期(黄熟期)での収穫ができています。</li> <li>・琴浦町、北栄町: 収穫は8割のほ場で終了。例年と比較して特に遅れは見られない。</li> <li>西部地区</li> <li>・大山町: 5月播種分のほ場を収穫中。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中部地区</li> <li>・倉吉市: 今月中に80ha程度まで収穫予定。</li> <li>・琴浦町、北栄町: コントラクターでは、今月中に収穫は終了予定。</li> </ul>	
	<p>イタリアンライグラス等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>東部地区</li> <li>・WCSの栽培面積は約190ha。計画より1週間遅れて、9月6日から鳥取市内海中のほ場で収穫開始。</li> <li>中部地区</li> <li>・琴浦町、北栄町: WCSは9月上旬から収穫開始。</li> <li>西部地区</li> <li>・大山町: イタリアンライグラスの作付け準備作業中。</li> <li>・伯耆町: ヒエ収穫作業中(飼料用)、概ね平年並みの生育。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イタリアンライグラスは早いところでは9月下旬から播種が始まる見込み。</li> </ul>	
その他	<p>農作業安全</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・9月12日広島気象台発表の1ヶ月予報では、1週目の気温は高く、2週目、3～4週目は平年並か高いと予想されている。</li> <li>・例年9月にも残暑影響で熱中症の発生がみられることから、引き続き農作業中の熱中症に注意を要する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【予防方法】</li> <li>・真夏の炎天下や、高温多湿条件(高温のハウスや作業場)での作業はできるだけ控える(特に高齢者は要注意)。</li> <li>・屋外では、風通しが良く、日射をささげる服装で作業する。</li> <li>・農作業に出かける前に、コップ一杯の水分を飲んで出かける。</li> <li>・農作業現場には必ず飲み物を持参し、こまめに水分補給する。のどの渇きを感じていなくても、20分おきにコップ一杯を目安に水分をとる(作業量に応じて加減する)。</li> <li>・水分は一度に大量に飲むよりも、小分けにして頻りに飲む方が効果的。塩分も同時に補給する(コップ一杯に食塩ひとつまみが目安、塩飴やタブレットなどの活用も)。</li> <li>・作業後も水分をとり、失われた水分を補給する。</li> <li>・前日に発表される熱中症警報等の気象情報を参考にするとともに、正午前後の気温の高い時間帯を避ける等計画的な作業を行う。</li> </ul>	